

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持補助事業

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
本庄市交通政策 協議会	朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	<p>○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。</p> <p>○評価検証の一環としてアンケートを実施した。</p> <p>○区域間共通の停留所設置し、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>○利用方法についてより分かりやすく周知するため、地元ケーブルテレビに働きかけ、デマンド交通の乗り方についての番組を放送してもらった。</p>	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>目標利用者数:13,000人 R2年度利用者数:10,127人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R2年度利用者満足度: 満足 45% 普通 27% 不満 24%</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、なるべく外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、移動手段を持たない交通弱者にとって買い物、通院といった日常の足となっているデマンド交通は、コロナ禍の中にあっても一定の利用がある。こうした状況はしばらく続くと思われる、利用状況の推移を見ながら、予約システムや車両数の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p> <p>また、デマンド交通の周知と利用促進のため試乗券を配布しアンケートを実施したり、地域コミュニティの集まりなどを活用し、利用説明を行うなど利用促進に取り組まれたことを評価する。</p> <p>しかし、目標を達成することが出来なかった部分もあり、目標を達成出来なかった点については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、こうした増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう進めていただきたい。</p>		
		本庄南地域デマンド			<p>目標に対する実利用者数の割合は77.9%で、利用者数は前年度比15.5%減となった。アンケート調査において満足度は前年度と比べ約4%増、不満足については約2%減となっている。コロナ禍により利用者数は減少したが、移動手段を持たない高齢者等、交通弱者の移動手段としての役割を果たしている。</p>				<p>満足又は普通とアンケートで回答した利用者が93%となっている。今後もしばらく新型コロナウイルス感染症の影響により以前より低い利用者数を推移すると予想される。</p> <p>アンケート等で寄せられる意見も踏まえ、より利用しやすい運行内容を必要に応じて検討していく。</p>
		児玉市街地デマンド			<p>目標利用者数:13,000人 R2年度利用者数:9,802人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R2利用者満足度: 満足67% 普通26% 不満4%</p>				
		児玉山間地域デマンド			<p>目標に対する実利用者数の割合は75.4%で、前年度比26.9%減となった。前年度と比べ満足度の割合は増加、不満足は減少した。コロナ禍により利用者は大きく減少し、鉄道利用者の減少も交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ本路線の利用者減の一因と考えられる。</p>				
本庄市交通政策 協議会	本庄観光株式会社	本庄シャトル便	<p>○OHPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。</p>	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>目標利用者数:13,000人 R2年度利用者数:9,802人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R2利用者満足度: 満足67% 普通26% 不満4%</p>	<p>満足又は普通とアンケートで回答した利用者が93%となっている。今後もしばらく新型コロナウイルス感染症の影響により以前より低い利用者数を推移すると予想される。</p> <p>アンケート等で寄せられる意見も踏まえ、より利用しやすい運行内容を必要に応じて検討していく。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p> <p>また、デマンド交通の周知と利用促進のため試乗券を配布しアンケートを実施したり、地域コミュニティの集まりなどを活用し、利用説明を行うなど利用促進に取り組まれたことを評価する。</p> <p>しかし、目標を達成することが出来なかった部分もあり、目標を達成出来なかった点については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、こうした増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう進めていただきたい。</p>		